



林 声



OKAYAMA

お か や ま

No.341 . 1998 . 9 . 1



瀬戸町森林公園

目 次

林業労働力の育成・確保を目指して！	2 ~ 3	“樹”	7
普及最新情報	4	林研だより	8
シリーズ森林公園	5	お知らせ	9
普及指導最前線	6	林産物市況	10

林業労働力の育成・確保を目指して！ 岡山県林業労働力確保支援センター

一 はじめに

本県では、来たるべき二十一世紀を展望し、豊かな人間性のつながりの中で、県民一人ひとりが快適にいそいそと生活することのできる「快適生活県おかやま」の実現をめざした新しい長期ビジョンを策定し、「創造と共生」の基本理念のもとに、県勢発展のための各種施策を展開しているところです。

この快適でいきいきとした県民生活を実現するうえで、県土の約七割を占める森林は、欠くことのできない貴重な資源であり、今後とも適正に維持・管理していくことが重要な課題であります。

しかしながら、このような森林の整備を担う林業労働者は、年々、高齢化が進むとともに、減少が続いており、新規就業者を中心とした林業労働力の育成確保は、今後の森林整備を適正

に進める上での重要な施策のひとつであります。

二 林業労働力の確保の促進に関する法律の制定

平成八年五月に林業労働力の確保を促進することを目的として「林業労働力の確保の促進に関する法律」が制定されましたが、この法律では、国の基本方針、県の基本計画を通じて、林業労働力の確保の目的を明確にするとともに、各県の林業労働力確保支援センターを指定し、

林業労働者の雇用の改善と事業の合理化を一体的に進めようとする事業主に対する支援措置や新規参入者の就業の円滑化のための支援措置を、このセンターを中心に展開することとしております。

三 岡山県林業労働力確保支援センターの指定

本県では、平成十年三月に財団法人岡山県林業振興基金を林

業労働力確保支援センターとして指定しました。

当財団は、本県の林業労働力の安定的確保と若い担い手の育成確保を図るため、平成三年度に設立され、林業労働者の社会保障制度の充実や高性能林業機械の整備を図るための助成事業等に取り組んできており、今後は支援センター事業を一体的に展開することで、担い手対策の実効がより一層あがるものと期待されます。

四 岡山県林業労働力確保支援センターの業務

(一) 林業作業士育成研修
林業労働に必要な専門的知識や技能、高性能林業機械の操作技術等を習得した地域林業の基幹となる林業作業士を養成するための研修を、六月から五期四十三日間にわたって実施しております。

(二) 新作業システムオペレーター研修
地域林業の中核となるシステムオペレーターを育成するため、地域の林業就業者を対象に

高性能林業機械のメンテナンス技術や森林の施業管理技術に関する研修を実施します。

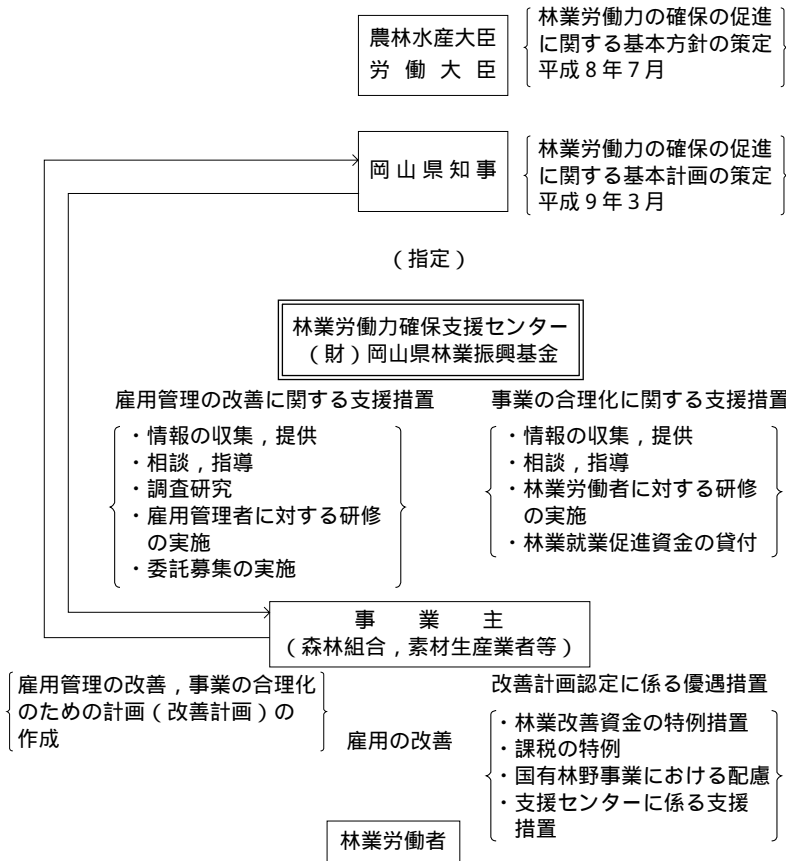
(三) 支援センター推進事業

林業労働力の育成確保を図るため、関係者で構成される林業労働力育成協議会を開催し、募集・受入条件整備等に関する協議を行うとともに、指導員を選任し、事業の合理化等を通じて林業労働力確保の促進について事業体の指導を行います。また、事業体の経営内容の多角化等経営の合理化を図るために必要な経営診断を実施します。



林業作業士育成研修の実施状況

林業労働力の確保の促進に関する法律の概要



以上が現在の業務の内容ですが、

事業主は、他の事業主及び支援センターと共同で林業労働力確保の促進に関する法律に基づく改善計画を策定し、認定を受ける必要があります。

(四) 担い手確保対策事業
新規参入の促進を図るため広報活動を行うとともに、林業労働者の受入条件整備等について事業者の指導などを行います。

(五) 林業雇用改善促進事業
林業雇用改善アドバイザーを設置し、事業者の行う雇用管理

の改善に関する取り組みについて、各種の相談・指導を行うとともに、雇用管理の改善のための調査研究、雇用情報の収集・提供等を行います。

(六) 林業就業促進資金の貸付
林業に新規参入しようとする者の就業の円滑化を図るため、

新規就業者の就業の準備や林業技術の研修受講等に必要な資金(無利子)の貸付を行います。貸付対象者は、新たに就業しようとする者及び新規就業者を雇用する認定事業主(林業労働力確保の促進に関する法律第五条に基づき改善計画の認定を受けた事業主)となっています。

今後はその他の取組についても検討し、本県の林業の担い手対策の一層の充実に努めて参りたいと考えております。

なお、業務や制度に関するお問合せは、次のとおりです。

(財)岡山県林業振興基金
(岡山県森林組合連合会内)
☎〇八六 二二二 七六七一
又は
岡山県農林水産部林政課
組合指導係
☎〇八六 二二四 二二一一
(内線: 二三〇八)

新しい栽培きのこ

一 はじめに

日本に自生するきのこの種類は四〜五千種（一説には一万種）といわれていますが、そのうち百三十種類程度が食用として利用されています。

これらのきのこのうち栽培技術が確立されているものは、シイタケ、エノキタケ、ナメコなどの十種類程度にすぎません。

近年、食生活の多様化が進むとともに自然食品、健康食品志向が強まり、きのこの需要は漸増しており、ハタケシメジ、キヌガサタケ、シロマイタケ等の新しいきのこの人工栽培技術が確立されつつあります。

岡山県においても、新たな短期収入作目をつくるために、県内に自生している野生きのこの中から味、香りなどが優れたものを収集し、平成二年度から野生きのこの栽培化の研究に取り組んできたところです。

この結果、「ウスヒラタケ」の優良系統種菌を得ることがで

き、種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

今後、このきのこを栽培するには、実践的な栽培の繰り返しによる安定的な栽培技術の確立が必要ですが、現地における栽培の様子や、サンプルを市場に出荷しての消費者の意向を調査しましたので、その概要を紹介

二 特徴

・ヒラタケと似ているが、やや小型で肉が薄い。味はあっさりしてくせが無く、様々な料理に利用できる。

・菌系の伸長適温が二十九度、きのこの発生適温が十七〜十八度と比較的高温で栽培できることから、生産コストの低減が期待できる。

（エノキタケ、ヒラタケなどは菌系の伸長適温が二十二〜二十五度、発生適温が十三〜十五度）

・植菌から収穫までの期間が約二十七日間と短く、生産効率が高いことが見込まれる。

（エノキタケ、ヒラタケなどは

約四十一日間）

三 栽培の実証

林業試験場において実施した結果、ビン栽培では、発生量が一ビン（千cc）平均八十七グラム採取できました。

培地の組成

オガコ：米ヌカ力約七：三

水分 六十三%

オガコ配合比

エノキ：スギ「五：五

原木（短木）栽培では、エノキ、ポプラ、フウを十五センチに玉切りしたものを用い、（平均直径 三十センチ）一月中旬〜三月下旬に植菌し、板伏せ後、六月下旬に本伏せを行ったところ、六月下旬から発生が見られました。

植菌一年目の発生は、エノキからの発生量が最も多く、原木一立方メートルあたり十七鉢のきのこが採れました。

四 市場の評価

発生したきのこを出荷し、消費者の意向を調査したところ、「美味しかった」が、七十一%を占め、好評でしたが、「癖が

無さ過ぎる」、「ブナシメジより歯触りが劣る」等の意見もありました。

六 おわりに

ビン栽培では、容易に入手可能なオガコによる最適な培地の検討、原木栽培では、調達が容易な樹種の選択、また、経営収支の分析等の課題はありますが、新しいきのことしての可能性が期待されます。



（林業専門技術員 吉岡哲哉）

シリーズ森林公園 9

瀬戸町森林公園

県北の奥深い森を訪れたような静けさと安らぎ。県南に居ながらにして、そんな感覚を味わうことができるのが、瀬戸町中央部に位置する瀬戸町森林公園です。

全域一四五ヘクタールの広大な園内には、平成元年から五年に実施された生活環境保全林整備事業により、林道と遊歩道が縦横に整備されており、ハイキング、デ

イキャンピングなど、それぞれの好みに応じた森林とのふれあいが手軽にできる森林公園です。園内を見渡して最初に目に飛



三谷公園へと続く遊歩道

び込んでくるのは、青々としたアカマツ、クロマツの姿です。ここにはまだ、きれいな松林が残っています。

自然に恵まれた一帯は山菜や草花も豊富で、季節ごとに、ワラビ、サクラ、コブシ、モミジ、ツバキなど、四季折々、色とりどりの花であふれます。

また、公園の中央に位置する「展望の丘」に登れば、遠くには瀬戸内海の輝きが、北方には吉備高原の連なりが望めます。

遊歩道に沿って歩いていると、ウグイスの鳴き声が聞こえてきました。この森林公園は三谷山鳥獣保護区にも指定されており、コゲラ、アオゲラ、エナガ、カワラヒワなどのかわいらしい姿も見られ、四季を通じて野鳥の愛好家などが、バードウォッチングを楽しんでいます。

また、園内には「歌碑の小道」が整備されており、町民か

ら募った歌が、石碑にして設置されています。ここでは、文化の情趣に浸ることもできます。

少し足を延ばして遊歩道を三谷公園まで進むと、百数本の桜と多数のモミジが植栽されており、毎年季節になると家族連れがお弁当などをもつて多数訪れ、にぎわいをみせます。園内には休憩舎、石積みの水路もあり、澄んだ水の流れを眺めながら、緑に囲まれて、ふつと一息つくのに適した公園です。



歌碑の小道

この瀬戸町森林公園には今後町内のポランティアの手によるツバキの植栽が計画されています。さらに多くの緑と花のあふれる公園となりそうです。

金剛童子

この公園内には「金剛童子」が祀られています。これは昔、吉井川を往来する高瀬舟の安全を祈願して、三谷山の上に舟霊を祀ったのが始まりとされています。現在では、婦人病などに霊験のあるひえ神様、子供の守護神として信仰を集めています。随筆家・小説家として知られる内田百閒も、「三谷の金剛様」という作品のなかで、幼い日の祖母との参拝の思い出や、現在も金剛様が自分の心のよりどころとなっていることを記述しています。

交通

瀬戸駅から車で五分。瀬戸町運動公園南側。駐車場有り。



(東備普及指導区Ag橋本里絵)

普及指導最前線

林研グループの活性化に向けて

全国的な不況、さらには昨年四月以降の住宅着工戸数の激減によつて木材価格が急落し、真庭地域の林業・木材産業も深刻な事態になっております。

また、林業従事者の減少・高齢化、後継者不足や林業生産コストの高騰などで、森林の適正な維持・管理にも支障をきたす状況になってきています。

このような状況の中、当普及指導区では地域振興対策の一つとして、「地域林業の中核的な担い手である林研グループの活性化」を本年度の重点普及項目として位置づけ、積極的な活動を展開していくこととしています。

当普及指導区には、林研グループが六グループ（内女性林研二グループ、全会員九十五名）あり、その上部組織として真庭地域林業研究連絡協議会（会長宮田修治）が昭和六十年に結成され、活動を続けています。

会員は、当地域の林研グループ会長、指導林家、梶森連、森林組

合など十七名で構成されております。

さる七月八日に当協議会総会が開催され、本年度の活動計画が承認され、次の活動に取り組むこととして紹介いたします。

一 真庭産優良材品評会の開催

昭和六十年より、林研グループが主体となり開催している行事で、十二回を数え回を重ねることに盛大になっております。本年度は厳しい状況下でもあり、沈滞ムードを一掃するため出品点数（素材）を倍増して実施することとしています。



昨年実施した品評会風景

二 ログハウスの建設

森林資源の充実にともないスギ中目材も多量に生産されるようになりましたが材価が安く、時としてコスト割れがおこるのが現状であります。

このスギ中目材の利用拡大を図るため、丸太のまま利用できるログハウスの建設方法の研修を林研グループが材料提供して行なうこととしています。

主な内容は、勝山町在住のログビルダー植木衆氏による講習会の開催（二日間×三回）、ログビルダーの指導・助言によるログハウスの建設、完成したログハウスの展示（勝山美しい森）を計画してあります。

加工研修はログビルダーの作業場で行ない、本年十一月一日に勝山美しい森で棟上げをする計画としてあります。当日、勝山美しい森では、交流イベントが計画されており、多数の参加者に、本格的なログハウスを見てもらい、本物の木の良さ、温かさを広くPRしたいと考えております。

三 林業・木材シンポジウムの開催

木材価格の急落などにより、森林所有者の意欲は急激に減退して

います。

このような時にこそ、地域振興の起爆剤としてのイベントが必要と考え、林業・木材産業に精通した講師による基調講演会と業界代表者がパネリストとなったシンポジウムを開催し、今日的な課題に対する総合的な打開策について検討することとしています。

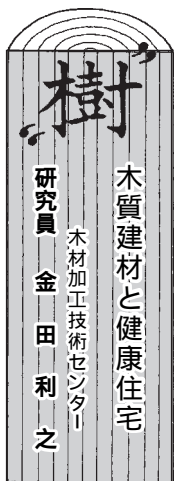
当シンポジウムは、十一月下旬に勝山町で開催する予定としておりますので、林業改良普及協会の皆様方の参加をお願いいたします。

（真庭普及指導区 Ag 柳谷義博）

放散ホルムアルデヒドの低減対策

前回は、木質建材、特に木質接着製品からホルムアルデヒドがどのように放散されるのか、そのメカニズムについて述べました。それでは、この放散ホルムアルデヒドはどうすれば低減できるのでしょうか。放散ホルムアルデヒドの低減対策としては、大学などの研究機関、接着剤製造メーカー、木質接着製品製造メーカーでいろいろな方法

が検討されています。これをまとめてみますと、接着剤に含まれるホルムアルデヒドの低減、被着材である木材の改善、製品の後処理、使用環境条件などがあります。については、接着剤の製造モル比（ホルムアルデヒドと主剤との比、F/U）を低減する方法や接着剤中や熱圧時に発生する遊離ホルムアルデヒドの捕捉剤（キャッチャー剤、メラミン、ユリア、フェノールなど）を添加する方法があります。については、合板やパ



ティクルボードの製造時に高い含水率の木材を使用すると製造後のホルムアルデヒドの放散量が多くなるため、できるだけ使用する木材の含水率を低減する。については、エージング処理（いわゆる養生）が有効で、この処理を行う際に若干熱をかけ排気を良くして処理すると効果があります。その他、製品の表面をウレタン等で塗装を施すとホルムアルデヒドの放散を抑制する効果があります。

については、硬化した樹脂の加水分解が高い湿度と高い温度で促進されるため、低温、低湿度で換気を十分に行える環境で使用すれば、ホルムアルデヒドの放散は低減します。

このほかにも様々な方法がありますが、これらについての特徴や問題点、その効果について表にまとめていますので参考にしてください。

木質材料からのホルムアルデヒド放散の低減方法

対象	方法	具体例	特徴と問題点	効果
接着剤	製造モル比の低減	ユリアの2次添加合成	強度不足	中
	遊離ホルムアルデヒドの低減	キャッチャー剤添加	硬化不足	小
	接着層の中和	中和剤、中性硬化剤	硬化不良	小
被着材	物理的処理	含水率の低減	処理が容易	大
	化学的処理	キャッチャー剤含浸	処理に難点	大
後処理	エージング	高換気率、熱処理	処理が簡便	大
	化学的処理	アンモニア、SO ₂	処理が高価	大
	物理的処理	塗装、オーバーレイ	処理が高価	大
使用環境	換気、水分、温度	高換気、低湿度、低温	簡便	大

(出典：富田文一郎、TIMBER ENGINEERING NEWS 28 1996)

林研だより

「芳井町林業研究会の

活動について」

一 はじめに

「芳井町林業研究会」は、井笠地域林業改良普及指導区の北部に位置する後月郡芳井町で結成された、当指導区唯一の「林業研究グループ」として活躍しています。

同会の歴史は古く、終戦直後には同会の前身であるマツタケ生産組合が芳井町内の四地区で結成され、昭和四〇年代に「芳井町赤松を守る会」として統合され、その後、名称の変更等を重ねながら現在の姿となりました。

同会では、現在一五四名の会員を擁し、日夜研鑽を積み重ねています。

今回は、古くから取り組んでいるマツタケの環境整備の中で、アカマツとヒノキの混交林からマツタケの生産に取り組んでいる一人の「キノコ名人」の

実践活動について紹介します。

二 活動内容

現在、「キノコ名人」と呼ばれる人達が同会に五名おり、マツタケ生産の牽引者となって会員を指導しています。

この「キノコ名人」達は、お互い連絡を取り合い、時には意見を戦わせながら、五人が独自の信念に基づいてマツタケの生産に取り組んでいます。

この中の一人で、現在、同会における長老的な存在である田辺稔氏（八二歳）は、長年の経験と研究からマツタケは窒素を嫌うという性質に着目し、更に昔からヒノキとマツタケの仲が良いと言われているのは、ヒノキが生長するに従い土壌中の窒素が吸収されているのではないかと考え、「アカマツとヒノキの混交林によるマツタケ林の整備」を思いついたということだ

す。

具体的には、アカマツ林の密度の低い場所にヒノキの幼苗を植栽し、毎年シロかきを実施するだけで特別なことをしなくても、年々シロの拡大が見られ、その様子はアカマツ林内におけるシロの拡大状況とよく似ているそうです。

約三〇年前からこの方法を実施していたところ、二、三年前からマツタケの発生が見られるようになり、発生するマツタケは、概して大きく品質が良いとのこと。ヒノキを植林してから約三〇年くらいが一番シロが蔓延し、マツタケが発生し易い環境ができるのではないかと田辺氏は考えています。

同氏によれば、シロは一年に約三センチずつくらい生長すると見込まれ、マツタケが発生しやすいとされる直径約一メートル前後に育つまで、三〇年程度かかるという取り組んでいます。

三 おわりに

写真は、施業歴三三年のアカマツ・ヒノキの混交林（三ヘクタール）

で年平均約一〇キの生産量があります。

今後は、このアカマツとヒノキの混交林によるマツタケ発生環境の整備方法に注目していきたいと考えています。

（井笠普及指導区 Ag 野口朋弘）



施業状況写真
（アカマツ・ヒノキ混交林，面積3ha）

お知らせ

林業改良指導員中央研修大会開催される

本年度の「林業改良指導員中央研修大会」を八月二十一日に岡山市の三光荘アトリウムホールにおいて開催しました。

この研修は普及指導員の資質の向上を図り、普及指導事業を効率的かつ円滑に推進することを目的として毎年開催しているもので、今年は七十二名の林業改良指導員が出席しました。

岡崎農林水産部参与（林政課長）の開会のあいさつの後、林業試験場の中島研究員が「高性能林業機械化の現状と今後の課題」と題して研究発表されました。高性能林業機械の普及は今後の林業活性化に向け最も重要な分野だけに参加者は真剣に耳を傾けていました。

午後からは「森林法改正に伴う普及指導職員の役割」をテーマにしたシンポジウムを行い、武田指導員（倉敷普及指導区）、内田指導員（高梁普及指

導区）、久野指導員（久米普及指導区）、黒瀬指導員（勝英普及指導区）の四名が、森林法改正に伴い市町村の林務担当職員への林業に関する知識・技術の普及をどのように進めていくべきかなどについて、それぞれの地域の特性を踏まえながら発表しました。

シンポジウム終了後、（社）全国林業改良普及協会の真柴専務理事を講師に招き、「これからの林業普及指導事業」と題した講演会を行いました。講演では、まず林業普及指導事業をめぐる最近の情勢についてふれ、普及事業が大きな岐路に立たされていることを話されました。

また、普及指導員はこれまで森林の造成技術を主として指導してきたが、今後は森林の管理・利用技術に重点を置かなければならないこと、また、こうした技術を普及指導員自身が十

分に身につけていないことを指摘され、今後の活動の課題として問題提起されました。

現在、林業・木材産業はたいへん厳しい状況にあります。が、こうした状況だからこそ、林業改良指導員の果たす役割が重要になっていきます。今後も地域林業発展のため指導員一丸となつて努力してまいりますので、よろしく願います。
（林業専門技術員 安東義朗）

林産物市場況

製材 (8月下旬)

杉正角 3m			桧正角 3m			桧長柱 6m		
寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)
6.0	一等	25 - 30	6.0	一等	38 - 40	10.5	特等	85 - 90
7.5	一等	20 - 22	7.5	一等	30 - 33	12.0	特等	105 - 110
9.0	上一	16 - 18	9.0	上一	18 - 20	"	上小	120 - 130
"	一等	20 - 22	"	一等	25 - 27	13.5	特等	95 - 100
10.5	一等	30 - 35	10.5	一等	55 - 60	"	上小	100 - 120
"	特等	35 - 40	"	特等	65 - 70	ラ ス 板		
"	上小	55 - 60	"	上小	110 - 150	2 ^m 1.2×	9.0	18 - 22
"	無節	70 - 90	"	無節	180 - 200	3 ^m 1.2×	9.0	18 - 22
12.0	特等	30 - 35	12.0	特等	70 - 73	2 ^m 1.5×	10.5	25 - 30
"	上小	45 - 50	"	上小	110 - 150	2 ^m 0.9×	24.0	60 - 65
"	無節	60 - 70	"	無節	180 - 200	2 ^m 1.5×	21.0	30 - 35
長 サ 4m			長 サ 4m			造 作 材		
6.0	一等	30 - 35	6.0	一等	43 - 45	杉4m 3.0×	3.0	無節 (本) 6 - 8
9.0	上一	20 - 21	9.0	上一	27 - 30	杉4m 4.0×	4.5	無節 (本) 12 - 20
"	一等	28 - 30	"	一等	45 - 48	杉4m 4.5×	10.5	無節 180 - 200
10.5	特等	35 - 40	10.5	特等	70 - 75	桧4m 4.5×	10.5	上小 150 - 200
12.0	特等	35 - 40	12.0	特等	70 - 75	桧4m 4.5×	10.5	無節 250 - 300

木材 (8月中旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3m	7 - 10	8	16	-
	11 - 13	10	17	-
	14 - 16	20	36	-
	18上	19	36	13
4m	7 - 10	9	19	-
	11 - 13	11	19	-
	14 - 16	15	38	-
	18上	16	35	15
6m	14 - 16	20	59	-
	18 - 20	15	50	-

乾しいたけ (7月中旬)

名柄別	価格 kg当り (百円)	
	平均	高 値
香 信 大 葉	43	80
" 中 葉	53	66
" 小 葉	40	61
バ レ 大 葉	33	51
" 中 葉	29	49
ス ラ イ ス	30	39
香 茹	67	100
上 冬 茹	66	79
並 "	56	75
並 並 "	47	62
小 玉 "	20	44
格 外 品	16	37

編集後記

早や、九月を迎えました。今年の夏は、北陸、東北地方で梅雨明けの発表ができなくなるなど異常気象となりました。最近の経済の低迷・金融破綻に加え、気象もおかしくなるなど、世紀末に向けて不安を覚えるのは私だけでしょうか。

これから、味覚の秋となりますが、何と言っても主役はマツタケでしょう。昨年は、ほとんど口に入らなかったのですが、今年はどうでしょうか。それこそ、気象条件に恵まれますように…… (A)